

大学准教授から 自然環境を学ぶ

大府東高

大府市の大府東高校で十日、人間環境大学（本部・岡崎市）の藤井芳一准教授（土壤生態学）を講師に、自然環境について考える特別授業があった。

大府東高は、理数工教育に力を入れる県教委の「あいちSTEAMハイスクール」に指定され、本年度から三年間、大学や企業の研究者らと連携し、科学実験のデータ分析やロボットのプログラミングなどに取り組む。

この日が最初の授業で「水質から見る自然

環境の仕組み」をテーマに二年生の理系クラス約八十人が出席した。

生徒は、藤井准教授が同大屋上で採取した雨の「降水」と大学演習林内の「湧水」のどちらがきれいか、なぜそう考えるかなどの仮説を立て、簡易測定器を使って実際に分析。結果を踏まえ、水質の変化と土壤など自



市の大府東高で
簡易測定器で水質測定をする生徒=大府

定をする生徒=大府

然環境との関係を考えた。

藤井准教授は生徒に「仮説を立て、それを測定で検証し、解釈をして結果をまとめる。

正解、不正解というより、こうした物事の考え方方が大切」と語り掛けた。参加した国武聖矢さん（一）は「考え方が大切」と話した。